

八尾市総合計画審議会 第1回ひと・まちづくり部会 議事録

日時：平成30年11月5日（月）18時30分～20時40分

場所：八尾市役所6階 大会議室

出席者：

久保委員、熊本委員（副部会長）、田口委員、丹波委員、轉馬委員、初谷委員（部会長）、
平野委員、藤本委員、村田委員、事務局

欠席者：

西田委員、新福委員

1. 開会

事務局

ただいまより、八尾市総合計画審議会 第1回ひと・まちづくり部会を始めます。

2. 委員、事務局の紹介

3. 審議対象施策担当課紹介

4. 副部会長の指名

初谷部会長

副部会長には、近畿大学人権問題研究所の熊本委員にお願いしたいと思います。よろしく
お願いいたします。熊本委員から、一言お願いいたします。

熊本副部会長

微力ながら、大切な部会の副部会長として尽力してまいりたいと思います。よろしくお
願いいたします。

5. 議事

（1）八尾市第5次総合計画 後期基本計画 施策の審議について

初谷部会長

本日は第1回目の会議のため、「八尾市総合計画審議会 目標別部会」の役割と今後の進
め方について、事務局より説明をお願いします。

事務局

（資料1、2説明）

初谷部会長

ご意見、ご質問をお願いいたします。特にないようなので、続いて、後期基本計画施策評価について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料 3、4、5、6、9 説明)

初谷部会長

ご意見、ご質問をお願いいたします。先ほど、どうしても修正が必要な箇所がある場合は修正すると言われましたが、それはどの部分が該当する可能性がありますか。

事務局

資料 9 の「後期基本計画期間における総括」、「第 6 次総合計画策定に向けた課題と展望」は、施策評価シートを元に作っていますが、施策評価の内容が大きく変わる場合に、修正するという事で申し上げました。

初谷部会長

われわれの議論によっては、その内容を変更する可能性があるということです。他にはないようなので、施策毎に審議していきたいと思います。われわれには 2 つの役割がありますが、まず 1 つ目の検証として、施策評価シートの「②総合評価」について、意見交換を行います。事前に目を通していただいていると思いますので、★印のそれぞれの評価について、共感できるものやそうでないものなどについて共有していきたいと思います。一度に提案のところまで議論してもよいのですが、時間の関係上、まずは全体を総覧する意味合いから、「②総合評価」について、共感できるもの、異論があるものを議論していきたいと思います。その中で、様々な問題が浮き彫りになってくると思いますので、それを踏まえて、「③第 6 次総合計画の策定に向けて」を議論していきたいと思います。

<施策 50>

初谷部会長

ご意見をお願いいたします。

久保委員

基本的に予定されていることはすべて実行されているので、この評価で違和感はありません。

田口委員

①の指標がかなり主観的なものなので、今後、どうすればよいかという点があります。めざすべきはすべての人に満足をということで、主観的な評価では不可能に近いと思うようなチャレンジ的な目標を掲げているのは、すごいと思います。今後、どうすればよいかという点も含めて、検討の余地はあると思います。

村田委員

基本方針そのものが分かりにくいです。総合評価で「基本方針の要素はすべて実施した」となっていますが、この場で議論すべきものかどうか分からないのですが、いじめ防止と相談先に関して啓発を行ったということが書かれています、すべて啓発に留まっているように思います。成果として、何か実数のものがあるのかが気になりました。この部会がそのようなことを議論する場なのかどうか分からないのですが、そこが疑問です。

初谷部会長

ここはそのようなことを議論する場です。そのような意見をどんどん出していただきたいと思います。

藤本委員

ここに記載されていることを考慮すると、総合評価はこのようになると思います。総合計画自体が5年、10年という長いスパンで立てられているので、その間に大きな法律が変化したり、八尾市における状況の変化などがあると思います。私は人権協会にいますので、人権主担者研修やトップセミナーなどについても一定のことは分かっています。私の感覚ですが、例えば市民への研修を行なうと、参加者はいつも同じような人が来ているように思います。庁内の人権研修における主担者研修やトップセミナーの様子が少し分かりにくいため、評価をどうすればよいかと思っています。少し議論から外れるかもしれませんが、一昨年、差別解消に関する3つの法律ができました。八尾市は同和地区を有していたり、外国籍の市民が非常に多いのですが、今後の展開についての内容は、対応に少しずれがあるのではと思います。全体的には、八尾市は頑張っていると思いますが、そのような感想をもっています。

丹波委員

めざす値を達成しているので、総合評価はこれでよいと思います。今後の取り組みについては、社会状況の変化などもあるため、やらなければならないこともあると思いますが、後期の評価についてはこれでよいと思います。

平野委員

行政の立場で擁護するような感じになるかもしれませんが、この施策については、なかなか客観的に見れないというところが多々ありまして、指標を立てた時にも、この指標で本当に見られるかどうかを考えてきた状況です。今後の考え方としてどうしていくべきかを、行政の内部でも考えていきたいと思っていますので、この場でも、ご意見をお聞きしたいと思います。

轉馬委員

施策 50 については、この指標はどうかと思っています。市独自で、もう少し工夫したものの方がよいと思います。

熊本副部長

提案にまで少し踏み込んでしまうかもしれませんが、施策 50 と施策 51 は、整理が必要だと思います。施策 50 は「心豊かな」と心の部分だけに限定していますが、一人一人の人権に関するものが施策 50 であり、居住や福祉、教育、就労、医療などの様々な分野を権利としてとらえるまちづくりが施策 50 だと思っています。施策 51 は「人権意識の高揚」とありますので、施策 50 の指標を人権の啓発だけに狭めてしまうのは、少し残念な気がします。施策 50 は人権研修への参加が指標になっていますが、「人権教育・啓発プラン」では、人権に関する取り組みの成果、把握、評価の仕組みづくりを検討するとなっているため、指標に関する議論が必要だと思います。

初谷部長

指標に関するご指摘が多いのですが、村田委員からご意見のあった基本方針について、何か他にありませんか。

村田委員

基本方針の組み立て方そのものが理解できていません。いじめに関することは大事なことでと思いますが、「いじめ防止啓発カードを作成し」などと書かれていますが、成果として「このような形で、いじめが年々減少している」、「いじめの内容が変わってきている」などがないものかと思っています。せっかくここまでこのような形でされているので、何らかの成果が見えればと思います。

初谷部長

私なりに申し上げますと、基本方針の表現方法として、「基本方針に基づき取り組みを進めます」、「推進を図ります」などのように、全体として、その施策について表現されていますが、ただ今のご指摘は、基本方針のところに、抽象的なものではなく、少し例示的に

具体的に示唆するものを入れたほうがよいのではというご意見だと思います。その点についていかがでしょうか。すぐに答えることが難しい点があれば、これに対する感想でもよいです。

事務局

確かに、もう少し具体化したほうが、よりリアルに分かりやすくなると思います。村田委員のご指摘については、行政内部の考え方では、実施計画というものになると思います。総合計画の中には、三角形の頂点になる基本構想に続いて、真ん中に基本計画があります。今は、この基本計画に該当する評価を行っていただいています。その下に、われわれが実際にその事務事業として予算とセットで進めている実施計画があります。実施計画の内容になってくると、どのような事業を進めていくかということが明確になっていきます。実施計画になると、かなり分かりやすく具体的になると思いますが、その上位に位置する基本計画、今回であれば前期5年、後期5年という中で、そこまで具体化したものを書いてよいものかどうかは、一つの課題だと思います。ご指摘のように、具体的であればあるほど分かりやすくなるため、今回、どの程度まで書くかについては、ご意見を踏まえて検討したいと思います。

初谷部会長

計画づくりには、従来からの作法というものがありますが、市民の感覚や様々な立場からみて、それでは伝わりにくいなどのご意見もあると思います。従来の作法と同じように繰り返してよいものかどうかといった問題意識をかきたてるようなご意見も積極的にいただきたいと思います。

各委員からご意見のあった、指標の主観性については、テーマとの関わりというものがありますが、この施策では指標はこうならざるを得ないのでしょうか。どのようにすれば、各委員からのご意見に応えられそうでしょうか。ここで発言があったから必ずそのようになるという訳ではなく、今後の議論の素材として考えさせていただくということです。

事務局（人権政策課）

各委員から、指標のあり方についてご指摘をいただきました。人権の分野では、数字で成果を見ることが難しいです。5年前、10年前に施策を立てるときに、例えば、啓発の研修会への参加についてもどこまで達成すればよいかということで、指標の組み立て方に苦労したと聞いています。施策を推進する中で、何かめざすものがなければ実施が難しいということで、このような形で、ご指摘のように主観的な指標をもたざるを得なかったというのが現状です。ただし、今回見直しの時期でもあるため、いろいろなご意見をいただきながら、今後に向けて考えていきたいと思っています。

初谷部会長

特に、先ほどの藤本委員のご指摘は、研修の参加率が高まっても、中身が同じ顔ぶれなのは問題ではないかということです。参加率についてもどうあるべきかというご指摘だと思います。施策 50 については、指標に関してはご意見がありましたが、概ねこの評価で妥当ということだと思います。

<施策 51>

初谷部会長

ご意見をお願いいたします。

平野委員

施策 51 は施策 50 と似かよっている部分もありますが、指標については、達成率が 100% になっています。先ほどと同じで、これを見ていってよいのかというご意見もあろうかと思いますが、先ほどと同じになりますが、今後に向けては何があるのだろうという部分で、ご意見をいただければと思います。

丹波委員

先ほどと同じで、指標は達成しているのでこの評価でよいのですが、この指標でよかったのかという問題はあります。

藤本委員

繰り返しになるのですが、総合評価は、確かにこのようになるだろうと思います。「めざす暮らしの姿」が「誰もが一人ひとりの人権を大切に、差別されことなく暮らしています」と、人権を「差別されことなく暮らすこと」と書いているということは、残念ながら、八尾市には、いろいろな差別があるという認識の下での文言になっていると思います。差別撤廃のようなスタンスが出てくる評価指標になればよいと思います。第 6 次では、右の欄の「考慮すべき社会経済環境の変化等」や「重要課題、課題対応のために必要な取り組み」に具体的にしていけるものだと思います。

村田委員

先ほどと同じような内容になると思いますが、「新規啓発事業の新規参加者の割合」という指標はよいと思います。藤本委員が指摘されたように、同じ人ばかり来るのではなく、新規参加者の数値を上げていくのはよいと思います。

田口委員

一定の評価をする場合は、定量的にデータが取れなければ難しいです。先ほどの施策 50

の参加率は市の職員の満足度であり、正直に言うとも中身がどうであれ、職場に不満をもっていればよい評価にはならず、一定数はそのような人がいるため 100%にはならないのですが、施策 51 のほうが分かりやすいと思います。施策 51 の指標で、初めての人をこれだけ呼び込めているというのは、何らかの工夫をされているのだろうと思います。どのような工夫をして、この成果を出したかということをもう少し丁寧に記載してもよいと思います。

久保委員

私もこれは厳しい指標で評価していると思います。新規参加者というのもよいと思います。さらに踏み込むとすれば、市民と協働して問題意識を上げるような新しい取り組みを行っていけば、それ自体が「八尾市は、このようなことに積極的に取り組んでいる」という宣伝になると思います。それに関しては、右の欄においてもインターネットで事例を紹介することも進めていったほうが、さらに計画の達成に近づくと思います。そのような工夫があればよいと思います。

熊本副部長

後期基本計画で相談事業について書かれていますが、相談件数の指標はここには入らないということでしょうか。

事務局（人権政策課）

相談件数は指標に入っていません。

初谷部長

ご意見を伺った結果、指標は妥当であるということです。指標のあり方の問題に加えて、委員からご指摘があったように、むしろ積極的な内容が書き切れていない部分があるということで、新規参加者を増やすためにどのような工夫を行なっているかについて、加筆したり、丁寧に書くことも必要ではないかというご意見をいただきました。実際にこれだけ数値が上がってきているということは、陰の努力がおりだったと思いますが、いかがですか。

事務局（人権政策課）

人権の取り組みについては啓発を重視して行っています。「何かをした」というより、あらゆる機会を通じて呼び掛けを行なっています。常に意識しているのは、「どれだけの人に参加していただいているか」、「どれだけの人に聞いていただいているか」、「どれだけの人に理解していただいているか」ということです。その部分を重視しながら、一つ一つの事業に取り組んできた成果だと思っています。

初谷部会長

施策 51 については、各委員に同感をいただいておりますが、さらに可能であれば、活動への参加という指標についても検討してはどうかというご意見でした。では、このような内容で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

全委員

異議ありません。

<施策 52>

初谷部会長

ご意見をお願いいたします。

久保委員

私は厳しいのではと思いました。ホームページのアクセス件数は状況によって変わるので、それを数値化するのは大変です。可能であれば、PR や周知のためにどのようなことをしたかのほうがよいと思います。満足度調査などを部分的に行なうのもよいと思います。

田口委員

①と②は、市役所としてできることを最大限されたということですが、③については、そもそも八尾市役所のホームページ全体のアクセス件数に対する割合は分かりますか。申し訳ないのですが、行政のホームページ自体があまり面白味がないのか、検索にうまく引っ掛かっていないなどの要因があるのではと思います。もし分析されていたら、教えてください。

事務局（文化国際課）

ホームページ全体のアクセス件数との関係については、分析できていません。先ほど周知はどのように行っているかというご意見がありましたが、2 か月に 1 回多言語での情報誌を発行していましたが、平成 28 年度から毎月発行へと変更しました。外国人市民を含めた編集会議を行ない、市政だよりの中から外国人の方にどのような情報が必要かを検討して発行しています。ホームページは日本語なので、そのあたり周知としては課題だと思っています。指標に相談事業件数があるように、ベトナム語、中国語、韓国語などで、市民生活に関する相談を行っています。ベトナム語がもっとも多く、1,000 件のうち約 900 件を占めています。このような相談事業を行なっているというリーフレットを通じて、出張所や本庁で周知を行なっています。

事務局（市政情報課）

ホームページ全体のアクセス件数の指標は、施策データシートの 20 ページの施策 60 にあります。数値としては、概ね同じような比率になっています。全体のアクセス件数のほうが、目標より低くなっています。その要因はいくつかありますが、その 1 つは、見たいところをトップページから直接検索して探すという風に検索の仕方が変わってきているという点です。ここではトップページのアクセス件数を指標にしています。以前から、ホームページが見にくいという評価もいただいているため、この 11 月にリニューアルして、スマートフォン対応もしていることから、今後評価が上がっていくのではと思っています。このような形で啓発をしていきたいと考えています。

初谷部会長

各担当課から積極的な説明がありましたが、そのようなことから改善されるのではないかと思います。

村田委員

特に意見はありませんが、八尾市における外国人市民が平成 27 年度から比較して約 500 人増加ということなので、今後、国の方針がどうなるかは分かりませんが、このウェイトは高くなっていくのではないかと思います。

藤本委員

基本方針にある「共に生活できる地域社会に向けて」についてです。私は八尾市に住んでおり、私の中学校区には多くの中国人の方が住んでおられます。市や地域の取り組みは頑張っておられ、文化やイベント的なものには地域の理解もあり交流がありますが、生活の営みとして働くことや、例えば医療に困ったときなどの生活に必要な識字、日本語教室のようなものが不足していると思います。私の地域では、高砂日本語教室という、生活に必要な日本語を学ぶ教室があります。ただし、いざと言うときにホームページにアクセスするのは、非識字という面があって、日本語では難しいです。八尾市は頑張っておられて市政だよりを多言語対応しており、生活に必要なことやイベントなどについて 5 か国語で記載していますが、中国人なら中国語が読めるということがなかったりするので、なかなかうまくいっていません。また、うまく伝わったとしても中国人が役所に電話すると、言葉の問題で対応してもらえないということもあります。そのような外国人の生活という面で、何か工夫があればよいと思います。

丹波委員

これについては、特に意見はありません。

平野委員

平均達成率が 92.0%となっています。アクセス件数に関するご意見がありましたが、市のホームページは、情報の必要性があるとき以外はなかなかアクセスしないため、この数値でよいのかどうかという判断が難しいと思います。言語が分からないことで八尾市での生活が困らないよう、情報をしっかり伝えていきたいということから、アクセス件数なども示しています。自分で情報を取れる人は一生懸命取っていただき、落ち着いて生活していければよいと思います。

相談事業については、「子どもを学校に入れるとこんな状況になった」とか、医療や就職など、生活基盤そのものについての相談をする際にも、言葉の壁があります。互いに文化を認め合う以前に、外国人で日本語が堪能でない人に落ち着いて生活していただくために、今回指標を3つ並べていると理解いただきたいと思います。八尾市は外国人が多く、5か国語で対応していることも評価していただければ、ありがたいです。まずは落ち着いて生活していただくことが第一歩ということで取り組んでいることを評価いただければありがたいです。

轉馬委員

この施策だけではなく、総合計画全体の弱点として、どうしても指標値に目がいつてしまうという点があります。「達成率が何パーセントか」「この指標でいいのか」などの議論になってしまいがちですが、そもそも指標値は施策のごく一部分しか表していません。そこばかり議論していると、本質が見えなくなってしまうです。できれば、総合評価の文章で、「具体的に何を行い、どのような成果になったか」を表して、皆で評価できればよいと思います。

熊本副部長

先ほど藤本委員も言われたように、多様な外国人市民が住んでおられることから、八尾市は早くから、災害時の情報発信も含めて多言語による情報発信をするなど、民間も行政もいろいろな取り組みをしています。歴史的にも実質的にも、八尾市は日本の中でも先進地として敬意を払っております。さらには、「外国人市民が地域活動にどのくらい参加したか」、また日本語教室を熱心に行っているため、「日本語教室の参加者数がどのくらい増えたか」などもっと外国人の姿が見えるようなものがあればよいと思います。

初谷部長

様々なご意見をいただきましたが、最後に轉馬委員からご指摘があったように、評価シートの事業の実施状況の文言が基本方針に照らし合わせてどうかという観点で、ご意見をいただけるとありがたいです。そのような意味では、先ほど熊本委員が言われたような観点も必要です。皆様のご意見をお聞きしていると、全体として八尾市は頑張っているとい

う評価はあるものの、住むことを考えると言語の問題があります。国の制度の問題もあり、今後、国別の人口分布や見通しがかなり変わっていくと思います。そのような動きを見ながら、八尾市の評価をさらに進めていけるよう、各言語を利用される人をサポートできるかというように発展できればよいと思います。

事務局（文化国際課）

最近ハベトナム人の方がかなり増えていることから、ベトナム人からの相談件数が増えており、今後も増えると予測しています。生活の視点についてご意見をいただきましたが、相談の中でも医療に関するものが多く、病院への同行を要望する人もいるため、そのような点からも生活をサポートしていきたいと考えています。また、外国人市民会議を年2回開催しています。八尾市に住んでいる様々な国籍の方にも委員になっていただき、生活上の困りごとについて意見を出し合ってもらっています。中には日本人と外国人市民とのトラブルの話もあるため、どのようにすればうまく解決できるかなどを話したりしています。

初谷部会長

各委員からご指摘があったような課題もありますが、概ねこの評価でよいということです。また、提案のところで議論したいと思います。

<施策 53>

初谷部会長

ご意見をお願いいたします。

平野委員

事業の実施状況の★印が1つですが、行政として少し評価が低くなっていると思います。平和に関しては、八尾市はいろいろと取り組んでいます。具体的な取り組みの中に、「戦争の記憶」の発行についても記載しています。しっかりやっていこうということで取り組んでいましたが、評価が低いと思うので、具体的な取り組みでの総括も評価していただければありがたいです。

事務局

本日追加で配布した施策 53 の取り組み実績「長崎被爆体験講話受講者累計」について、補足させていただきたいため、施策担当から説明させていただきます。

（追加資料説明）

藤本委員

達成率が 69.0%と、もっとも低い項目だと思って見ていましたが、台風の影響というこ

とが分かりました。これを見て気になったことが2つあります。1つは、戦争体験をした人が高齢になったり、お亡くなりになっていく中で、戦争の悲惨さや苦しい体験をどのように子どもたちにつないでいくかです。生活環境を見ていると、われわれ世代は、貧しさなどで生い立ちも共感でき、体験を受け入れることができますが、子どもたちは生い立ちも共感しにくくなっていきます。戦争体験をもつ人が非常に少なくなっているため、戦争体験や戦争の無意味さをどのように伝えるかが、難しくなっていきます。私の校区では、小学校の修学旅行で広島に行き、中学校の修学旅行で長崎に行きます。そこで平和や人権について学びます。昔は、佐伯敏子さんという有名な語り部の方がおられ、子どもたちや学校と、手紙のやり取りを行ってつながっていましたが、今後、受け継ぐ側の文化がどのように変わっていくかが気になりました。

田口委員

私もこの数値を最初に見て、そもそも今年なぜこのようなことが起きるかは、災害に尽きると思いました。他の指標に比べて違和感があります。ただ、今の子どもたちはカリキュラムが一杯です。大変大事な授業だと思いますが、一般の授業を止めてまでこれを優先するのは実際には不可能です。ここは、中身を丁寧に説明してはどうかと思います。1年でも飛ぶと子どもたちの学ぶ権利を奪うことになるため、どこかでフォローできればよいと思います。数値は、昨年と比べると違和感があったので質問しようと思っていましたが、説明を受けて納得しました。

初谷部会長

災害により指標がこのような結果になることは予め見えていたかと思いますが、これをどのようにフォローすればよいかについて、何か考えはありますか。

事務局（文化国際課）

被爆された方々が高齢になっていることから、八尾市に来ていただく日数は限られます。今回中止になった学校については、来年度優先的に受講できるように配慮する予定です。この「長崎被爆体験講話」は各学校からの要望が多いため、万遍なくいき渡るようにしていきたいと思っています。

久保委員

事業ができなかったので評価が低くなるというのではなく、「今年も同じように準備はできていた」ということで評価してよいと思います。質問ですが、指標の②「平和な社会が大切だと感じている市民の割合」は、どのような調査で、母集団は何でしょうか。

事務局

毎年行っている市民意識調査の中にある項目です。平成 29 年度の実績は、発送数は 3,000 件、有効回答数は 1,488 件、回答率は 49.6%でした。

熊本副部長

5 年前、10 年前と比べて、平和を巡る意識は変わっていると思います。平和については、「戦争がない」という狭義の言葉ではなく、もう少し広くとらえた平和の概念が使われています。総合評価の事業の実施状況では、基本方針に沿って実施できたという中身を、もっと丁寧に書いたほうがよいと思います。1 回の平和啓発事業の参加者数というだけでなく、もっと違う評価の仕方があると思います。例えば、八尾市は、国際協力についての活動を積極的にされていると思います。そのようなことも文言として記載してはどうかと思います。

初谷部長

八尾市として一所懸命取り組んでおられ、あるレベルに達しています。そこからさらにこの取り組みをより充実したものに発展させるためには、どうするかだと思います。特に現在取り組んでいる事業については、台風による数値の減少の問題もあります。施策の方法を考えて、それによって新たな指標が出されることが求められる時期がきていると思います。次の計画では、しっかり考えなければならないと思います。施策としては、全体としてよく努力しているという評価でよいと思います。ただし、数値が低くなっていることの分析と説明を工夫してはどうかということです。

<施策 54>

初谷部長

ご意見をお願いいたします。

平野委員

「地域のまちづくり支援、地域拠点の充実」という点では、八尾市としては 1 丁目 1 番地の施策として進めてきました。総合評価の中にやってきたことがいろいろと記載されていますが、「活発な地域活動」という言葉で表現されているだけです。地域活動も校区毎に様々な工夫をして行なっています。市民が直接関わってくれているということを聞いていますが、行政に対する評価になってしまっています。われわれとしては、できれば 5 年前に比べて様々な地域活動がふくらんできて、参加者が増えてきていることを評価できればありがたいと思います。これも行政内部で、もっと書き込めなかったのかということ、反省点として思っています。

初谷部会長

参加者の多様さや参加者数なども書いてはというご指摘です。情報の発信などの指標しかないため、もっと総体として評価できるものを付け加えられないかというご意見です。

久保委員

総合評価に「地域予算制度等による支援を行った」とありますが、支援を行った件数や応募件数を書いてはどうかと思います。それと同時に、担い手がうまく回っているかどうかということも重要です。同じ人、同じところばかりが応募してくるということでは、住民の満足度は上がっていきません。この辺りの流動性なども評価になり得ると思います。それが市民アンケートの結果につながって、まちの住みやすさの評価につながっていれば面白いと思います。

田口委員

私はいくつかの自治体と仕事をしていますが、指標に関しては、どこも同じような悩みをもっています。特に、意識の高揚を数値化するのは難しいです。4年、5年と経つと、ウェブの形態やアクセスに関して苦戦しています。4～5年前はパソコンで情報を検索していましたが、今はスマホやタブレット端末などにアプリで様々な情報のやり取りを行なっています。同じブラウザを使うとは限らず、アプリでいろいろな情報が飛んでくる中では、ウェブ発信のヒット効果は難しいです。IT関連は行政が5年前に想定していた以上のスピードで進んでいるため、もし次の指標もこれを使うなら、途中で流動的に見直すような何かを入れておかなければ、同じことを繰り返す可能性があります。

初谷部会長

この点についても、提案のところでしっかり議論したいと思います。分野別の部会の他に地域別の部会もあり、そこでも様々な議論が出てくるとと思いますが、本日は担当課も参加しています。そもそも施策のテーマが「地域のまちづくり支援、地域拠点の充実」なので、普段仕事をする上で、どのようなまちづくり支援ができたか、また地域拠点が充実してきたかという実感や手ごたえをもっていると思います。今後の提案の議論のときにも素材として生かしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局（コミュニティ政策推進課）

地域コミュニティとしては以前は町会がありましたが、町会への加入率の低下があります。そのような中では、災害への備えや相談しやすい近所同士の付き合いなど、地域コミュニティの活性化が重要であると認識しています。このような状況の中、八尾市では、様々な支援を行いながら校区まちづくり協議会を立ち上げ、地域のつながりにつなげています。防災訓練やふれあい祭りなどの活動に見える形で市民に参加してもらうなど、普段からお

つきあいいただけるような地域社会を作っていきたいと考えています。今挙げているウェブ発信は、校区まちづくり協議会や様々な活動を認知してもらうために、重要と考えていますが、ご意見を踏まえながら、様々な情報発信や共有できる形を考えていきたいと思っています。

初谷部会長

ただ今のような方向のものも素晴らしいと思いますが、「支援が役に立った」というものがあれば、効果につながっていくと思います。そのような具体的なものを紹介いただくと参考になるため、後日でも構いませんので、教えていただければと思います。

藤本委員

八尾市の1丁目1番地ということで、市民にとってはいろいろと議論があったところです。出張所の証明書関連の業務を廃止して、出張所の職員はまちづくりに積極的に「たずねる、よりそう、つながる」という高い理想をもって関わっていこうということです。ずっと座っている町役場のイメージの出張所が、機動力をもって動くことにチャレンジすることは、非常に評価しています。

八尾市は広く、私が住む桂小学校区は市内のもっとも北の端なので、証明書を発行してもらうためには、片道230円のバス代を使って往復しなければならず、余分なお金がかかります。コンビニでもマイナンバーカードで証明書を取れますが、全体的にもそうですが、特に桂小学校区は高齢者が多いためマイナンバーカードを持っている人は少ないです。高齢者にとっては不便なことになっています。私は、個人的にはまちづくりを支援することは評価しています。本来出張所が拠点になっていくという、頼られるという過渡期が数年続くと思っており、その過渡期は市も市民も我慢の時だと思っています。

私は校区まちづくり協議会の副会長を務めているため、皆様に少しリアルにイメージできればよいのではと思い、いくつか資料を持ってきましたので、回して見ていただければと思います。私の地域では、担当課からの様々な情報や施設からくる案内チラシが、残念ながら郵便受けから捨てられて散らばっています。私が地域協議会の事務局長を務めていたときに、1本にまとめようと思いました。1本にまとめることで、散らかることが少なくなり、関連施設で情報共有ができたりするのでよいのではと思い、「はな緒」という地域情報誌を作りました。最初は地域の中でのお金の持ち寄りでしたが、まちづくりの交付金があるということで、それを使って若干紙面を充実するようにしました。毎月学校やコミュニティセンターの様子などを掲載しています。桂小学校区では交通の便に困っているという現状があったため、校区まちづくり協議会に空いている自動車を貸し出し、校区まちづくり協議会で、有償ボランティアの運転手を手配してもらう「あいらぶ自動車」という取り組みを行っています。校区まちづくり協議会に、マッチングなどのオペレーターになっていただいています。これには、まちづくり支援の補助金はいただいていません。それぞ

れの地域でうまく活用できていたり、定期的に活用しているかどうかの差がありますが、一例として紹介させていただきました。

初谷部会長

ただ今のような、自主事業的な取り組みもあるということです。市としても力を入れているという面もあります。そのような取り組みに地域が呼応して、自主的に取り組みを起こしていくことの効果があるのではと思います。

平野委員

初谷部会長から、行政として行っているものの中で効果があつた例がないかというお話がありました。いろいろと出てきていますが、最初に何か取り組みをやっていこうというときに、地域の安全、安心に関わることは、地域で元々自治振興委員会、地区福祉委員会などで様々な取り組みをされていて、そのようなものが積み重なってきているので、まず安全、安心というところに焦点が当たり、次に子育てなどの未来に向かうものがきて、最終的に地域の魅力の発信、再発見など、地域の魅力改革に関わるようなものに行き着くのではないかという議論をしたことがあります。大変速いスピードでいろいろなことが生まれてきていまして、高齢者の安全、安心として見守りや防犯に関わるものは、当初から動いていました。28 校区ありますが、ある校区が始めると近隣の校区も参考にしながら動き始めるということがありました。青色防犯パトロールには、地域の高齢に近い男性も参加くださっており、地域での見守り活動がどんどん広がっています。

また、子どもに関しては、元々、小さい子どもをもつ母親たちが集まろうというものがあったのですが、その中で、母親同士の横のつながりを作ろうという地域も出てきました。魅力再発見については、地域の中で歴史、文化があるところでいろいろなことをして、愛着をもたせようという動きも出てきています。この短期間でどんどんメニューを作っていると思います。

校区まちづくり協議会ができて、最近驚いていることがあります。どの地域でも、こども会活動が難しくなっています。というのは、地域の担い手というより、共働きの中で、親がこども会活動に協力するのが難しくなっています。「こども会は大事」ということを地域の中で話し合って、校区まちづくり協議会でこども会活動を支援しようということで、保護者に関わらず、「第二の人生を送っておられる年代の人がこども会を回していくので、安心して子どもを連れてきてください」などの声掛けをすることで、こども会の再編ができた例があります。「小学校に入学して突然始めるのではなく、もっと幼少期から入ってはどうか」という声掛けをしてくださったことで広がってきた例もあります。そのようなことで、若い世代の人が先輩の方々に助けられて生活していくところにまで、地域の中で循環してきたという事例も出てきています。このように、この間にたくさんの活動が出てきました。先ほど、「もっと地域活動を評価していただけるとありがたい」という話

がありましたが、このような動きが出てきています。

初谷部会長

やはり活動評価のようなものをどうするかが、地域別部会でも大切なテーマになっていくと思います。

熊本副部会長

指標としている「わがまち推進計画を策定している校区の割合」が平成 28～30 年まで 100%と続いているため、何か工夫ができればと思います。

初谷部会長

皆様のご意見では、八尾市としては、力を入れているということです。今後とも、校区まちづくり協議会にも期待しています。それに相応しい施策の評価のあり方や目に見えるものがあればよいと思います。引き続き、提案のところでも議論したいと思います。

<施策 55>

初谷部会長

私から確認したい点があります。「中間支援組織である『つどい』がつなぎ役になっている」ということですが、中間支援組織がしっかり活動できるようにしなければ、なかなかうまくいきません。つなぎ役について、どのように効果を図っているかについて、お聞きしたいです。また、右側の「第 6 次総合計画の策定に向けて」にも関わってきますが、市と中間支援組織との協働については、具体的にはどのような状況になっていますか。

事務局（コミュニティ政策推進課）

平成 29 年度の中間支援組織である「つどい」についてですが、八尾市においては地域拠点がもっとも地域市民の状況を把握しています。「つどい」が地域拠点と常に情報交換や交流を行い、どのような地域を目指しているか、何を補足すればよいかなどを把握しています。校区まちづくり協議会が 28 校区でできていますが、前年度の事業報告を行なう成果報告会を翌年度に開催しています。すべての校区まちづくり協議会の連絡会に「つどい」が参加して、市民活動団体などを紹介したりしています。担い手は、いろいろなところで必要であり、次世代につないでいくために重要ということで、そのようなことを補っていたでいます。またテーマをもって市民活動を行っているところをつなぎながら、よりよい活動ができるような体制を作るということで、紹介、情報提供、情報共有などを「つどい」が平成 29 年度も重点的に行い、今年度も引き続き行っています。

初谷部会長

施策 55 は、「市民の社会貢献活動の促進」というように「促進」がテーマになっているため、今の指標がもう少し違う角度から、促進がどのくらい進んだかが見える指標があればよいと思います。促進に関わる活動の評価のようなものを加えてはどうかと思います。

久保委員

総合評価に「今後は、市民活動と地域活動の連携を強化する方向にシフトしていく」とあるため、この部分を数量化できないかと思います。また、細かいことですが、指標の②のアンケート結果の数値の上がり下がり、どのくらい議論されるのかと思います。

事務局（コミュニティ政策推進課）

大体同じような数値の上下があるのですが、詳しい分析はまだできていません。

久保委員

たまたま下がったということもあるため、下がっていても問題ない場合もあると思います。

初谷部会長

全体として、この評価でよいということで確認させていただきます。

<施策 56>

初谷部会長

平成 30 年度から女性活躍推進室が設置されましたが、この指標とはどのように関わってきますか。女性活躍推進室が設置されたことで、どのような変化がありましたか。

事務局（政策推進課）

平成 30 年度から女性活躍推進室が設置されました。その前身として、平成 28 年度に女性活躍推進プロジェクトチームを立ち上げ、取り組みを進めていました。活躍したいと思っている女性が様々な分野で活躍できる施策を進めていきたいということで、「地域で活躍する」、「仕事で活躍する」、「生涯かがやく」の 3 つの考え方で、取り組みを進めていました。具体的には、施策評価シートの 7 ページの「具体的取り組みについての総括」などに記載しています。校区まちづくり協議会で活動している女性の交流会を行なっています。

また、庁内でも率先して女性の活躍を進めていくために、育児休業中の職員に集まっていただき、復帰後にスムーズに仕事に就いていただける仕組みづくりを検討しています。指標との兼ね合いで申し上げますと、ここでは 3 つの指標を上げていますが、女性活躍推進プロジェクトチームや女性活躍推進室で取り組んでいる具体的なものに関連する指標は設

けていないのが現状です。実施計画等で、プロジェクトチームや女性活躍推進室で取り組んでいる個別事業の中で、目標設定しながら取り組みを進めています。

初谷部会長

長いスパンで評価するため、その間には組織の変化もあります。ただ今言われたように、必ずしもそれに見合う指標にならないこともあり「地域で活躍する」、「仕事で活躍する」、「生涯かがやく」に相応しい新しい指標が必要になることもあるということです。ご意見をお願いします。

田口委員

最近では、私が女性ということで、行政から様々な機会に呼んでいただけるようになりました。これについては、毎年取り組みが変わってくると思います。私たち女性自身が「何が活躍の推進なのか」を悩みながらやっています。

初谷部会長

抽象的で具体的な指標に落としにくい分野だと思います。

熊本副部会長

男女共同参画についての市民意識調査や八尾市はつらつプラン、行動計画を見たところ、これらにも指標が記載されていたため、そこで分析したものをこの計画に盛り込めば、双方の関連づけができるのでよいと思います。例えば、市民意識調査で、「事業について知らない」という人が半数を超えていることから、その認知度を上げる取り組みを行なうことが記載されていました。

ワーク・ライフ・バランスについても、そのこと自体を知らない人が 68%で、市民意識調査では、「ワーク・ライフ・バランスの環境整備を望む。それがまさに活躍推進を促進するもの」という報告がかなり出ていました。職場や家庭で男女が対等に働くためには、学校教育や社会が変わること、男性への教育や啓発、企業のあり方が変わることが大事であるなど、市民意識調査から浮かび上がってきていることがあり、また行動計画で分析していることもあるため、そのようなことも記載すればよいと思います。

平野委員

指標で見るのが実は足かせになって、様々なところで難しい思いをしているということが出てきています。国から様々な指針が出ているため、それに沿った形になっています。実際には、例えば審議会に充て職で委員を推薦いただいている母体が1つありますが、その母体にはほとんど女性がいません。女性が出なければならぬとなると、その人にかなり負担がかかるという現実がけっこうあります。これについては、うちの中でもけっこう

議論になっていました。

田口委員が「女性の活躍とは一体何だろう」と言われていましたが、お話をさせていただく中で、今までのスタイルでずっと生活してこられた人が、その生活スタイルの中で、自分らしく生きていくことを表現している人がたくさんいらっしゃいます。そこに焦点を当てて出せないかということをやってきました。地域の中では、役員は男性が多いのですが、実際に様々なイベントを行なう際に、活躍しているのはほとんど女性です。その中には、女性同士が仲良く様々なことをして自分らしさを発揮している人もおられます。労働分野など様々なところで「一億総活躍社会」と言われますが、八尾市としてはどのようなことが皆の活躍として認められるかに焦点を当ててきましたが、数値としては出しにくい状況です。人権の施策からずっとそうなのですが、指標だけでは表現しにくい面があります。この指標は特にそうだと思います。

田口委員

いつも思うことですが、女性の活躍推進と言われたときに、女性の管理職をある割合にするなどが、本当に女性の活躍なのかどうかと疑問に思っています。「週3日働きたい」、「一日3時間働きたい」という人をどんどん受け入れて、同じ条件で雇用できるような世の中こそが、女性の活躍ではないかと思います。きれいごとでもなんでもなく、私の周りの男性は、奥さんにご飯を作ってもらうことが当たり前だと思っています。自分が帰ってきて、お風呂に入って上がってきたら、ご飯が並んでいてビールを飲むことが当たり前だと思っています。家事もほとんど要求されるので、同じように働いて同じように給料をもらっていても、母親と120%くらいの力が必要です。皆がスーパーウーマンではなく、皆が体力をもっているわけではないため、自分なりの働き方や生き方を許容してくれる社会こそが、実は女性が活躍できる社会ではないかと思います。子どもを産むと負担がかかるのは女性です。そのようなことを受け入れられる世の中が、女性の活躍推進だと思います。

初谷部会長

これも、提言のところで十分議論しなければならない部分だと思います。先ほど轉馬委員からご指摘がありましたが、総合計画の評価としては定量的なもの、数値化したものも必要ですが、ただ今のご意見のように、施策の内容に着眼して、その趣旨がどの程度生かされているかなどを工夫することも必要です。この施策についても、この評価で妥当いたします。

<施策 57>

初谷部会長

ご意見をお願いいたします。

久保委員

行なっていることに対して成果を求める指標が、その成果を測るには時期が早すぎると思います。事業提案しているものの結果が将来的に、「住み続けたい」、「満足している」ということにつながると思います。今回は、事業ができたかということにしたほうがよいと思います。内容に関する開示をしていただきたいと思います。

熊本副部長

指標は、市民の意識のことしか出ていませんが、市民の意識のみを評価指標とするのは、少し疑問があります。計画行政を進めるにあたって関係団体とどのような協議を行ったか、当事者や市民がどのくらい参加したかなどが書き込んであればよいと思います。

初谷部会長

この2つの指標は悩まれたものと思いますが、計画行政の推進であてはまるものだと思います。いかに計画行政を定義して、この言葉に込められた趣旨がどのように実現されているかを図るために何がよいかについて、提案の際に議論したいと思います。評価については、妥当ということです。

<施策 58>

初谷部会長

ご意見をお願いいたします。

平野委員

平成30年4月に八尾市が中核市に移行したことで、権限が広がり、住民サービスを高めることができないかを追求してきました。その中には、八尾市が単独でやっていけるかという議論もあります。例えば、八尾市にごみの焼却処理場はありますが、単独処理することではなく、過去から大阪市と一緒にやっています。それを仕組みとして、もう少しきちんと行うということで松原市も呼び込んで一部事務組合という形にまでしてきました。それによって財政面では、年間で億単位かかっていた費用がコストダウンできて効率化できています。

広域化については様々な効果が見られますが、周りの市民と同じサービスであることが望ましい場合は広域化すべきということで考えていきたいと思います。効率的、効果的に、また財政面や広域化について考えながら、探っている状況です。事務処理件数が増えてきていますが、大きかったのは先ほど申し上げたことです。今後も増えるかという点、なかなか難しいです。常に意識しながらやっていくべきもの、また社会情勢によって変わっていくものなどを行政として常に意識できているかという点が、評価点だと思っていますが、新たな指標を提案できるまでにはなっていません。

初谷部会長

広域化に相応しいテーマにおいて実践して、効果がどの程度出ているかが求められています。単に広域化した件数を図るだけでよいのかというご指摘もあると思います。指標や施策の評価のあり方について、次回議論したいと思います。広域行政の推進の評価は異論ありませんか。

全委員

異議ありません。

初谷部会長

時間になりましたので、今日は施策 58 までとします。次回、施策 59 から 63 までを議論し、その後、提案について意見交換します。

事務局

第 2 回のひと・まちづくり部会は、11 月 26 日（月）18 時 30 分から市役所本館 8 階の委員会室で開催します。今後の会議についても、本日の資料一式を持参いただきますよう、お願いします。

6. 閉会

事務局

これで、八尾市総合計画審議会 第 1 回ひと・まちづくり部会を終了します。

以上